

「さつま町青少年ウミガメ交流事業を振り返って」

「さつま町と中種子町との友好交流に関する協定」に基づき実施された青少年交流事業は、平成18年7月21日から23日にかけて熊毛郡中種子町を会場に実施され、町内各小中学校から40人が参加しました。

この事業は、『平成18年度宝くじ助成金（青少年健全育成助成事業）』の助成を受け実施されたもので、中種子町青年等との交流を深め、お互いの情報交換等が図られるなど、現在も継続的に交流が行われています。

当事業に参加した町内小中学生40人も、普段できない体験や、団体生活を通して、また一つたくましくなって帰ってきました。

参加者を代表して鶴田中学校2年本田茉莉恵さんの感想を掲載しております。当事業の参加者は、団体行動のあり方やリーダーとしての自覚など、この活動を通して得た成果をもとに、今後もリーダーとして学校や地域活動の中で生かしてくれることを期待します。

「ウミガメ交流事業に参加して」



鶴田中学校2年
本田 茉莉恵

7月21日から23日まで種子島に行きました。初めての種子島で、期待と不安でいっぱいでした。

参加する前に、目標を立てました。班の目標は「人に迷惑をかけない行動をする」でした。楽しくなると周りが見えなくなり、つい自分勝手な行動をしてしまいがちなので、この目標を立てました。最初は、少し時間に遅れたりして、みんなに迷惑をかけることがあったけど最後の日は、時計を見ながら行動し、しっかりと時間を守れました。班で集まるときもスムーズにできて、とてもいい行動ができました。自分の目標は、「班長として、しっかりとみんなをまとめる」と「責任を持って行動する」の二つでした。私は一番上なので班長を任せられました。みんなをまとめられるだろうか・・・と少し不安でした。でも班のみんなが他の人に声かけをしたりしてくれたので、とても助かりました。責任を持って行動することもできました。

種子島に来て感動したことは、まずとても海がきれいだったことです。透きとおるような青で、とても感動しました。種子島の環境がいいからなんだなと思いました。あと、種子島の方々がとても親切でいい人ばかりでした。親しげにはなしかけてくれて全然緊張しませんでした。とてもうれしかったです。

この交流をおして、いろんな体験をすることができました。そして、たくさんの友達が出来ました。三日間という短い時間だったけど、多くのことを学ぶことができました。種子島で学んだことを、今後に生かせるようがんばりたいです。

がんばれ 認定農業者!! シリーズ⑥

◎ さつま町求名

下境田 徳造 さん



下境田さんは、サラリーマンを15年された後、家業を継ぐために5年前に就農されました。

父を継いで2代目。現在、母豚100頭の一貫経営を主に、水稻2haを生産されています。

就農して1年後には、県内と関西方面の量販店と直接契約を結び、農場で生産された豚は、直接量販店へ出荷されています。

安心、安全はもとより、品質と味にこだわった下境田農場で生産された豚は、「下境田農場」とラベル表示され、商品として量販店に並びます。

平成14年度に認定農業者として認定され、地域の担い手の一人として頑張っています。名前だけの認定農業者ではなく、認定農業者として大きな目標を立て、質の高い農家を目指したいと話す下境田さん。

最後に「今より規模を大きくし、休暇もしっかりと取れるような経営を行い、後継者が自分もやりたいと思ってくれるような農業を目指したい」と将来の抱負を話されました。